

| | | | | | |
|--------|-------------|-----|-----|---------|-----|
| 教科(科目) | 農業（農業と環境） | 単位数 | 3単位 | 学年(コース) | 1学年 |
| 使用教科書 | 「農業と環境」実教出版 | | | | |
| 副教材等 | | | | | |

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

| | |
|----------------|---|
| グラデュエーション・ポリシー | <p>～卒業までにこのような資質・能力を育みます～</p> <p>①心身ともに健康で調和のとれた人格の形成を目指すとともに、現代の農業に対応し、地域に貢献できる力を育成する。</p> <p>②体験的な活動をとおして、望ましい勤労観・職業観を育み、多様な課題に対応できる能力を育成する。</p> <p>③社会や地域の一員としての自覚を持ち、自らの成長のために挑戦しようとする心を育成する。</p> |
| カリキュラム・ポリシー | <p>～上記の資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～</p> <p>①知識や技能を習得させ、主体的に学習に取り組む態度を養う教育活動を展開します。</p> <p>②課題研究などの授業を通して、課題解決を図る探究的な学習活動に取り組みます。</p> <p>③地域や外部機関と連携し、地域や社会の方々との交流活動に取り組みます。</p> |

2 学習目標

| |
|---|
| <p>農業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、農業の各分野で活用する基礎的な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 農業と環境について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 農業と環境に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。</p> <p>(3) 農業と環境について基礎的な知識と技術が農業の各分野で活用できるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。</p> |
|---|

3 学習計画

※知・知識・技術、思・思考・判断・表現、主・主体的に学習に取り組む態度

| 学期 | 月 | 授業計画 | 学習内容 | 時間 | 評価の観点※ | | | 備考 |
|-------------|---|---|--|----|--------|---|---|---------------------------------|
| | | | | | 知 | 思 | 主 | |
| 一 学 期 | 4 | <p>【栽培・環境のプロジェクト】</p> <p>○ダイズの栽培と利用</p> <p>①ダイズ(エダマメ)とは</p> <p>②課題設定と栽培計画</p> <p>③栽培の実際</p> | <p>・エダマメの栽培、管理</p> <p>・エダマメ栽培を通して特性や調査記録し、必要な知識、管理技術の習得</p> <p>・生育調査</p> | 9 | ○ | ○ | ○ | <p>・エダマメの播種</p> <p>・エダマメの定植</p> |
| | 5 | <p>【栽培と飼育の基礎】</p> <p>○作物の特性と栽培のしくみ</p> <p>①生活の中の作物</p> <p>②作物の自然分類</p> <p>③たねと発芽・たねまき</p> | <p>・生育調査</p> | 12 | ○ | ○ | ○ | |
| | 6 | <p>④成長のしくみと管理</p> <p>ダイズ(エダマメ)の生育と管理</p> <p>⑤作物の繁殖と育種</p> <p>⑥作付体系と作型</p> | <p>・エダマメ栽培を通して特性や調査記録</p> <p>・必要な知識、管理技術の習得</p> <p>生育調査</p> | 12 | ○ | ○ | ○ | |
| | 7 | <p>○ダイズの栽培と利用</p> <p>④ダイズ(エダマメ)の利用</p> <p>収穫・加工等</p> | <p>・エダマメ栽培レポート</p> | 9 | ○ | ○ | ○ | <p>・エダマメの収量調査、収穫・販売</p> |

1 学 期 期 末 考 査

| | | | | | | | | |
|-------------|----|---|--|----|---|---|---|--|
| 二 学 期 | 9 | ○ダイコンの栽培と利用 ①ダイコンとは ②課題設定と栽培計画 ③栽培の実践 | ・ダイコンの栽培について ・生育調査 | 9 | ○ | ○ | ○ | |
| | 10 | ○ダイコンの利用 2 学 期 中 間 考 査 【栽培と飼育と環境のプロジェクト】 ・水辺の調査の方法と利用 【栽培と飼育の基礎】 ○作物をとりまく環境とその管理 ①作物栽培と環境 ②作物の生育と大気環境 | ・ダイコンの葉の成長と根部の肥大の様子を観察し、加工の方法までの学習 ・基本的な環境調査を通して、植物の栽培環境の理解 ・にごり ・pH測定 ・DOなど | 12 | ○ | ○ | ○ | ・ダイコンの収穫・販売 ・EC・pHメーターによる水質調査など |
| | 11 | ③作物の生育を支える土 ④作物の養分と肥料 ⑤作物をとりまく生物 【農業と環境を学ぶ】 ○農業と環境の学び方 ①農業学習の特徴 ②プロジェクト学習とその流れ ③報告書の作成と発表 ④農業学習におけるプロジェクト学習 | ・肥料の成分量・施用量の求め方 ・プロジェクト学習や農業クラブ組織についての理解 | 12 | ○ | ○ | ○ | |
| 三 学 期 | 12 | 2 学 期 期 末 考 査 ○学校農業クラブ活動 ①学校農業クラブ活動の目標 | ・学校農業クラブ活動の組織や活動方法についての理解 | 9 | ○ | ○ | ○ | |
| | 1 | | ・学校農業クラブ活動の組織や活動方法について理解する。 | 9 | ○ | ○ | ○ | |
| | 2 | ②栽培と飼育に関するプロジェクトの実際 ③環境に関するプロジェクトの実際 3 学 期 期 末 考 査 | | 9 | ○ | ○ | ○ | |
| | 3 | 1年間のまとめ | 調査データの整理・分析 | 3 | ○ | ○ | ○ | |

計105時間 (50分授業)

4 評価規準と評価方法

| | | | |
|-------|---|---|---|
| | 評価は次の観点から行います。 | | |
| | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
| 評価の観点 | 農業と環境について基礎的な知識や技術を体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身につけようとしている。 | 農業と環境に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決しようとしている。 | 農業と環境について基礎的な知識と技術が農業の各分野で活用できるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を身につけようとしている。 |
| 評価方法 | 以上の観点を踏まえ、 <ul style="list-style-type: none"> ・ペーパーテスト ・栽培管理 ・文章による説明 ・式やグラフでの表現 ・観察・実験 などから、評価します。 | 以上の観点を踏まえ、 <ul style="list-style-type: none"> ・ペーパーテスト ・論述やレポートの作成 ・発表、グループでの話し合い、 ・作品の制作や表現 などから、評価します。 | 以上の観点を踏まえ、 <ul style="list-style-type: none"> ・ノートやレポート等における記述 ・授業中の発言 ・自己評価や相互評価等の状況 などから、評価します。 |

5 担当者からの一言

本科目では、作物の栽培管理を通して、生徒が主体的・継続的に生育状況を観察し、問題を発見したり、自ら調べたりして管理作業を工夫しようとする態度など、粘り強く栽培技術を学ぼうとする姿勢が大切である。

令和7年度シラバス（農業）

学番25 新潟県立新発田農業高等学校

| | | | | | |
|--------|--|-----|-----|---------|-----|
| 教科(科目) | 農業（農業と情報） | 単位数 | 2単位 | 学年(コース) | 1学年 |
| 使用教科書 | 農業702 「農業と情報」 実教出版 | | | | |
| 副教材等 | アプリケーションソフトウェアの活用技術習得のための副教材「30時間でマスター Office2024」実教出版 | | | | |

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー（共通の追加項目）

| | |
|----------------|---|
| グラデュエーション・ポリシー | <p>～卒業までにこのような資質・能力を育みます～</p> <p>①心身ともに健康で調和のとれた人格の形成を目指すとともに、現代の農業に対応し、地域に貢献できる力を育成する。</p> <p>②体験的な活動をとおして、望ましい勤労観・職業観を育み、多様な課題に対応できる能力を育成する。</p> <p>③社会や地域の一員としての自覚を持ち、自らの成長のために挑戦しようとする心を育成する。</p> |
| カリキュラム・ポリシー | <p>～上記の資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～</p> <p>①知識や技能を習得させ、主体的に学習に取り組む態度を養う教育活動を展開します。</p> <p>②課題研究などの授業を通して、課題解決を図る探究的な学習活動に取り組みます。</p> <p>③地域や外部機関と連携し、地域や社会の方々との交流活動に取り組みます。</p> |

2 学習目標

| |
|---|
| <p>農業の見方・考え方を働かせ、農業に関する課題を発見・調査・分析し、農業に関する情報を主体的に活用するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 実社会に必要な情報処理技術（情報セキュリティ対策や情報モラルへの配慮といった、情報化社会の影の部分への対策）を身に付けるようにする。</p> <p>(2) ICTを活用してやりたいことが円滑に行え、情報化社会の光の部分を楽しむことができるようにする。</p> <p>(3) 農業情報の活用に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。</p> <p>(4) 地域の農業の諸課題（農業従事者の高齢化・労働力不足、耕作放棄地の増加や食料自給率の低下など）を理解し、情報通信技術（ICT）を活用して、省力化・精密化や高品質生産の実現を試みようとする態度を養う。</p> |
|---|

3 学習計画

| 学期 | 月 | 授業計画 | 学習内容 | 時間 | 評価の観点※ | | | 備考 |
|----|--------------------------|-------------------------|---|----|--------|---|---|--|
| | | | | | 知 | 思 | 主 | |
| 1 | | オリエンテーション | コンピュータ教室と端末の使用ルールを確認する。 | 4 | ○ | | ○ | 端末の起動、終了方法の点検 |
| | | 第1章 私たちの生活と農業の情報化 | ・情報化社会の光と影について考え、SNSの使い方や、個人情報の取り扱い、知的財産権の保護、情報モラルについて理解する。 | 21 | ○ | ○ | ○ | 実習の様子 (行動の確認) レポート・演習プリント(記述の確認) |
| | 4 | 1 情報社会における私たちの生活 | | | | | | |
| | 5 | 2 情報とメディア 3 情報社会とモラル | | | | | | |
| | 6 | 情報端末の基本操作 1 | アプリケーションソフトウェアの演習を通して、実際の情報処理の過程を理解する。 ・自分で活用できるように基本的な技術を身に付ける。・アプリケーションソフトの基本操作を理解する | | ○ | | ○ | 端末の操作の点検 実習の様子(行動の確認) 演習ファイル等の提出 |
| 7 | 情報表現とソフトウェア ②文書の作成と表現 | | | | | | | |
| | | 定期(期末) 考査 | | 1 | ○ | ○ | | |

| | | | | | | | | | | | | | |
|---|---------------|-------------------------|--|----|---|---|---|---|--|---|---|---|--|
| 2 | 9 | 第2章 | コンピュータのしくみ、コンピュータで取り扱う情報の種類と表現、情報通信ネットワークとインターネットのしくみ、情報のセキュリティ管理、などを理解する。 | 29 | ○ | ○ | ○ | レポート・演習プリント(記述の確認) | | | | | |
| | 10 | 社会を支えるコンピュータ | | | | | | | | | | | |
| | 11 | 1 コンピュータのしくみ | | | | | | | | | | | |
| | 12 | 2 データや情報の表現 | | | | | | | | | | | |
| | | 3 情報通信ネットワーク | | | | | | | | | | | |
| | 4 インターネットのしくみ | | | | | | | | | | | | |
| | 5 情報セキュリティ | | | | | | | | | | | | |
| | | 第4章 | 最先端の農産物であるスマート農業のしくみを理解し、簡単なシステム的设计・プログラミングを通して情報システムについて学ぶ。 | | ○ | ○ | ○ | レポート・演習プリント(記述の確認) | | | | | |
| | | スマート農業への展望 | | | | | | | | | | | |
| | | 1 スマート農業のめざす将来 | | | | | | | | | | | |
| | | 4 計測と制御 | | | | | | | | | | | |
| | | 5 リモートセンシングとGIS | | | | | | | | | | | |
| | | 情報端末の基本操作 2 | アプリケーションソフトウェアの演習を通して、実際の情報処理の過程を理解する。 ・自分で活用できるように基本的な技術を身に付ける。 | | ○ | | ○ | 端末の操作の点検 実習の様子(行動の確認) 演習ファイル等の提出 | | | | | |
| | | 情報表現とソフトウェア | | | | | | | | | | | |
| | | ③データの集計と視覚化 | | | | | | | | | | | |
| | | 情報端末の基本操作 3 | | | | | | | | | | | |
| | | 情報表現とソフトウェア | | | | | | | | | | | |
| | | ④プレゼンテーション | | | | | | 端末の操作の点検 実習の様子(行動の確認) 演習ファイル等の提出 | | | | | |
| | | 定期考査 | | 1 | ○ | ○ | | | | | | | |
| 3 | 1 | 第5章 | 農業の各分野における情報の種類や特徴を学び、情報の収集方法や分析・活用方法の基礎について学習する。 | 13 | ○ | ○ | ○ | 端末の操作の点検 実習と発表の様子(行動の確認) レポート・演習プリント(記述の確認) | | | | | |
| | 2 | 農業情報の分析と活用 | | | | | | | | | | | |
| | 3 | 1 農業情報の収集と分析 | | | | | | | | | | | |
| | | 2 農業生産、環境、食品に関する情報分析と活用 | | | | | | | | | | | |
| | | 情報端末の基本操作④ | | | | | | | | | | | |
| | | 情報表現とソフトウェア | 設定課題について、自分の伝えたい意見や情報を研究し、アプリケーションソフトウェアを総合的に使用して、効果的な発表をおこなう。 | | ○ | ○ | ○ | 端末の操作の点検 実習と発表の様子(行動の確認) レポート・演習プリント(記述の確認) 演習ファイル等の提出 | | | | | |
| | | ⑤情報発信(プレゼンテーション) | | | | | | | | | | | |
| | | 定期(学年末)考査 | | | | | | | | 1 | ○ | ○ | |

4 評価規準と評価方法

| | | | |
|-------|--|--|--|
| | 評価は次の観点から行います。 | | |
| | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
| 評価の観点 | <ul style="list-style-type: none"> ・情報社会のしくみや農業分野の情報化、農業の発展に関する知識を理解し、適切に情報を収集して活用している。 ・情報社会の個人の責任とセキュリティ管理に関する知識を理解しようとしている。 | <ul style="list-style-type: none"> ・農業学習に関する課題の解決をめざし、て思考を深め、基礎的な知識と技術をもとに科学的に判断することができる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・情報社会のしくみや農業各分野の情報化に関心をもち、農業の情報化や農業の発展に関する課題や活用について探求しようとしている。 |

| | | | |
|------|--|--|--|
| 評価方法 | <p>以上の観点を踏まえ、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定期考査、実技テストの分析 ・演習プリントやレポートなどの提出物の内容の確認 <p style="text-align: right;">などから、評価します。</p> | <p>以上の観点を踏まえ、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定期考査、実技テストの分析 ・授業中の発言、発表などの活動の取り組みを観察 ・演習プリントやレポート、作品などの提出物の内容の確認 <p style="text-align: right;">などから、評価します。</p> | <p>以上の観点を踏まえ、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実技テストの分析 ・授業中の発言、発表などの活動の取り組みを観察 ・演習プリントやレポートなどの提出物の内容の確認 <p style="text-align: right;">などから、評価します。</p> |
|------|--|--|--|

5 課題・提出物等

- ・ 演習プリントやレポートなどの提出物があります。
- ・ アプリケーションソフトを活用した課題や作品の提出物があります。
- ・ 長期休業中の課題は別途指示します。

6 担当者からの一言

農業と情報の授業では、さまざまなソフトウェアについて課題を通して実践的に学び、2、3年生での課題研究やプロジェクト学習に必要な技術を身につけます。情報は現代社会では自らの生活と切り離せないものであり、モラルやリテラシーを身につけることも重要であることを理解してください。

(担当：大崎・山本)

| | | | | | |
|--------|-------------------------|-----|-----|---------|-----|
| 教科(科目) | 総合実習 | 単位数 | 3単位 | 学年(コース) | 1学年 |
| 使用教科書 | | | | | |
| 副教材等 | 「農業と環境」(実教出版)各専攻配付プリント、 | | | | |

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

| | |
|----------------|--|
| グラデュエーション・ポリシー | ～卒業までにこのような資質・能力を育みます～ ①心身ともに健康で調和のとれた人格の形成を目指すとともに、現代の農業に対応し、地域に貢献できる力を育成する。 ②体験的な活動をとおして、望ましい勤労観・職業観を育み、多様な課題に対応できる能力を育成する。 ③社会や地域の一員としての自覚を持ち、自らの成長のために挑戦しようとする心を育成する。 |
| カリキュラム・ポリシー | ～上記の資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～ ①知識や技能を習得させ、主体的に学習に取り組む態度を養う教育活動を展開します。 ②課題研究などの授業を通して、課題解決を図る探究的な学習活動に取り組みます。 ③地域や外部機関と連携し、地域や社会の方々との交流活動に取り組みます。 |

2 学習目標

| |
|---|
| 農業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、農業の各分野で活用する基礎的な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 総合実習について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。 (2) 総合実習に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。 (3) 総合実習について基礎的な知識と技術が農業の各分野で活用できるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。 |
|---|

3 学習計画

※知・知識・技術、思・思考・判断・表現、主・主体的に学習に取り組む態度

| 学期 | 月 | 授業計画 | 学習内容 | 時間 | 評価の観点※ | | | 備考 |
|-------------|---|--|--|----|--------|---|---|---|
| | | | | | 知 | 思 | 主 | |
| 一 学 期 | 4 | ○体験学習オリエンテーション | ・総合実習(体験学習)の授業展開、評価、実習の心得などについて理解する。 ・農業科ローテーション 第1展開：2時間 | | ○ | ○ | ○ | 体験学習(週2時間) 週2時間下記8専攻を体験的に学習する。 |
| | 5 | ○ローテーション体験学習 4月～12月の間に8専攻を各自が2回ずつ体験する。 | 8専攻の学習内容、実験・実習を理解して、学科選択の参考とする。 | 39 | ○ | ○ | ○ | ・作物、野菜 動物、地域草花、フラワー食品、栄養 ※4クラス同時展開 1コース20名 |
| | 6 | ○調査研究学習 4月～9月の諸問題に関する調べ学習を行い、成果をまとめポスターセッションによる発表を行う。 | 情報処理室や自教室を使用し農業の諸問題に関する調べ学習及び成果発表を行う。 | | ○ | ○ | ○ | 調査研究学習(週1時間) 調べ学習及び発表は2～3名の小単位で行う。 |
| | 7 | 1 学 期 期 末 考 査 | | | | ○ | ○ | ○ |
| | 9 | ○ローテーション体験学習 | ・農業科ローテーション | | ○ | ○ | ○ | |

| | | | | | | | | |
|---------------|----|---|--|----|---|---|---|--|
| 二 学 期 | 10 | 4月～12月の間に8専攻を各自が2回ずつ体験する。 | 第2展開:2時間 8専攻の学習内容、実験・実習を理解して、学科選択の参考とする。 ・農業研修、講演会 | | | | | |
| | 11 | ○調査研究学習 10月～2月の所属予定学科に関連する農業諸問題に関する調べ学習をおこない、成果をパソコンでまとめパワーポイントを活用した発表を行う。 | ・情報処理室や自教室を使用し、所属予定学科に関する農業の諸問題について調べ学習および成果発表を行う。 | 45 | ○ | ○ | ○ | 調査研究学習(週1時間)調べ学習および発表は2～3名の小グループ単位で行う。 ※クラスごと展開 ※考査は8専攻の体験学習と調査研究学習の内容から出題させる。 |
| 2 学 期 期 末 考 査 | | | | | | | | |
| | 12 | 専攻別体験 専攻ごとに分かれて、専攻の学習を行う。 | ・専攻の学習内容、実験・実習を通じて各専攻の学習内容に理解を深め、2年次以降の学習の参考とする。 | | ○ | ○ | ○ | ※考査は専攻の体験学習の内容から出題させる。 |
| 三 学 期 | 1 | 専攻別体験 専攻ごとに分かれて、専攻の学習を行う。 | ・専攻の学習内容、実験・実習を通じ各専攻の学習内容に理解を深め、2年次以降の学習の参考とする。 | 18 | ○ | ○ | ○ | |
| | 2 | 3 学 期 期 末 考 査 | | | | ○ | ○ | ○ |
| | 3 | ○年間のまとめ | | 3 | ○ | ○ | ○ | |

計105時間 (50分授業)

4 評価規準と評価方法

| 評価は次の観点から行います。 | | | |
|----------------|---|---|---|
| | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
| 評価の観点 | 各専攻別体験学習について基礎的な知識や技術を体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身につけようとしている。 | 各専攻別体験学習に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決しようとしている。 | 各専攻別体験学習について基礎的な知識と技術が農業の各分野で活用できるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を身につけようとしている。 |
| 評価方法 | 以上の観点を踏まえ、 <ul style="list-style-type: none"> ・ペーパーテスト ・栽培管理 ・文章による説明 ・式やグラフでの表現 ・観察・実験 などから、評価します。 | 以上の観点を踏まえ、 <ul style="list-style-type: none"> ・ペーパーテスト ・論述やレポートの作成 ・発表、グループでの話し合い、 ・作品の制作や表現 などから、評価します。 | 以上の観点を踏まえ、 <ul style="list-style-type: none"> ・ノートやレポート等における記述 ・授業中の発言 ・自己評価や相互評価等の状況 などから、評価します。 |

5 担当者からの一言

本科目では、各専攻体験学習を通して、生徒が主体的・継続的に生育状況を観察し、問題を発見したり、自ら調べたりして管理作業を工夫しようとする態度など、粘り強く栽培技術や実験・実習、加工・製造等を学ぼうとする姿勢が大切である。

| | | | | | |
|--------|----------|-----|-----|---------|-----|
| 教科(科目) | 農業（課題研究） | 単位数 | 2単位 | 学年(コース) | 2学年 |
| 使用教科書 | なし | | | | |
| 副教材等 | なし | | | | |

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

| | |
|----------------|---|
| グラデュエーション・ポリシー | <p>～卒業までにこのような資質・能力を育みます～</p> <p>①心身ともに健康で調和のとれた人格の形成を目指すとともに、現代の農業に対応し、地域に貢献できる力を育成する。</p> <p>②体験的な活動をとおして、望ましい勤労観・職業観を育み、多様な課題に対応できる能力を育成する。</p> <p>③社会や地域の一員としての自覚を持ち、自らの成長のために挑戦しようとする心を育成する。</p> |
| カリキュラム・ポリシー | <p>～上記の資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～</p> <p>①知識や技能を習得させ、主体的に学習に取り組む態度を養う教育活動を展開します。</p> <p>②課題研究などの授業を通して、課題解決を図る探究的な学習活動に取り組みます。</p> <p>③地域や外部機関と連携し、地域や社会の方々との交流活動に取り組みます。</p> |

2 学習目標

| |
|---|
| <p>農業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、社会を支え産業の発展を担う職業人として必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 農業の各分野について体系的・系統的に理解するとともに、相互に関連付けられた技術を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 農業に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として解決策を探究し、科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。</p> <p>(3) 課題を解決する力の向上を目指して自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。</p> |
|---|

3 学習計画

※知…知識・技術、思…思考・判断・表現、主…主体的に学習に取り組む態度

| 学期 | 月 | 授業計画 | 学習内容 | 時間 | 評価の観点 | | | 備考 | |
|---------|-------------|---|--|----|-------|---|---|---|---|
| | | | | | 知 | 思 | 主 | | |
| 1 学期 | 4 5 6 | 本年度計画の確認 研究を進める。 | 課題研究の意義を理解し、過去の研究例を参考としながら、テーマを決め、年間計画を作成する。 | 20 | ○ | | ○ | ・個人ファイルを持たせ、毎週提出 ・計画書の提出 ・1学期報告書作成 (6月下旬～7月上旬) | |
| | | 進捗状況を確認し計画を微調整する。 | 計画表を元に研究を進める。 | | ○ | ○ | | | |
| | | 1学期報告書作成および自己評価表作成 | 進捗状況を確認し、計画を修正する。 | | | ○ | ○ | | |
| | | | 飼育、栽培の管理 | | ○ | ○ | | | |
| | | | 発育や生育に関する調査 | | | | ○ | | ○ |
| | | 研究データの整理。 | | ○ | ○ | | | | |
| | | 1学期報告書と自己評価表の作成をとおして、今までの反省をふまえた上での計画の見直しを図る。 | | | | ○ | ○ | | |

| | | | | | | | |
|-------------|----|---|---|----|---|---|--|
| 2 学 期 | 7 | 研究を進める。 | 飼育、栽培の管理継続 | 30 | ○ | ○ | <ul style="list-style-type: none"> ・個人ファイルを持たせ、毎週提出 ・2学期報告書作成 (11月中旬～12月上旬) |
| | 8 | | 発育や生育に関する調査・研究を継続 | | | ○ | |
| | 9 | | | | | ○ | |
| | 10 | | | | | ○ | |
| | 11 | 2学期報告書作成および自己評価表作成 | 研究データの整理。 2学期報告書と自己評価表の作成をとおして、今までの反省をふまえた上での計画の見直しを図る。 | | ○ | ○ | |
| 3 学 期 | 11 | 研究を進める。 | 生育、飼育データを解析し、研究をまとめる。 | 20 | | ○ | <ul style="list-style-type: none"> 2年次報告書作成と研究中間発表会準備 (1月下旬～2月下旬) 2学期報告書作成 (11月中旬～12月上旬) パワーポイントの作成 |
| | 12 | | | | | ○ | |
| | 1 | | | | | ○ | |
| | 2 | 研究中間発表会の準備 | パワーポイントによるプレゼンテーションの作成 | | ○ | ○ | |
| | 3 | 2年次報告書の作成 自己評価表の作成 研究中間発表会 来年度の計画の作成 | 発表原稿の作成 2年次報告書と自己評価表の作成を通して、1年間を振り返り課題研究の意義と成果を確認する。 研究中間発表会の準備を行う。 1年間の成果と課題を踏まえて、来年度の計画を立てる。 | | ○ | ○ | |

計 70時間 (50分授業)

4 評価規準と評価方法

| | | | |
|-------|--|---|---|
| | 評価は次の観点から行います。 | | |
| | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
| 評価の観点 | <p>農業の各分野に必要な問題解決能力や自己教育力などの育成をするため、プレゼンテーションの基礎的な知識・技術を身につけ、データをまとめることができる。</p> <p>農業の各分野に関する基礎的・基本的な知識を身につけ、農業の意義や役割を理解している。</p> <p>実験・実習の方法が身につけようとしている。</p> | <p>農業に関する諸課題の解決を目指して思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を基に、農業に携わるものとして適切に判断し、表現する創造的な能力を身につけている。</p> <p>実験・実習に向けての学習に対して、考察が的確であり、それに伴い計画の立案、変更ができる。実験・実習、学習記録簿や報告書作成が的確にすることができる。</p> | <p>農業に関する諸課題について関心を持ち、その改善・向上を目指して主体的に取り組もうとすると共に、実践的な態度を身につけている。</p> <p>課題の設定や計画の立案などに意欲的で研究活動・資格取得活動に熱心に取り組もうとしている。</p> |
| 評価方法 | <p>以上の観点を踏まえ、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日々の活動ごとの報告用紙 ・研究データの収集および解析 ・学期報告書、自己評価表 ・飼育、栽培への取り組み <p>などから、評価します。</p> | <p>以上の観点を踏まえ、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究計画書の作成 ・プレゼンテーションの作成および発表の様子 ・自己評価用紙の作成 ・研究データの収集および解析 <p>などから、評価します。</p> | <p>以上の観点を踏まえ、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究計画書の作成 ・プレゼンテーションの作成 ・自己評価用紙の作成 ・日々の研究への取り組み <p>などから、評価します。</p> |

5 課題・提出物等

- ・ 研究計画表
- ・ 学期ごとの自己評価シート
- ・ データをまとめた研究記録用紙
- ・ 研究記録をまとめた用紙およびパワーポイント

6 担当者からの一言

毎時間の実験・実習報告書を提出してもらい、1学期末・2学期末に「1学期中間報告書」、「2学期中間報告書」、学年末には「2年次報告書」を作成、提出してもらいます。また、成績に加味するよう年度末に学科または専攻単位で中間発表会を実施します。

(担当：各専攻職員)

| | | | | | |
|--------|----------|-----|-----|---------|-----|
| 教科(科目) | 農業（課題研究） | 単位数 | 2単位 | 学年(コース) | 3学年 |
| 使用教科書 | なし | | | | |
| 副教材等 | なし | | | | |

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

| | |
|----------------|---|
| グラデュエーション・ポリシー | <p>～卒業までにこのような資質・能力を育みます～</p> <p>①心身ともに健康で調和のとれた人格の形成を目指すとともに、現代の農業に対応し、地域に貢献できる力を育成する。</p> <p>②体験的な活動をとおして、望ましい勤労観・職業観を育み、多様な課題に対応できる能力を育成する。</p> <p>③社会や地域の一員としての自覚を持ち、自らの成長のために挑戦しようとする心を育成する。</p> |
| カリキュラム・ポリシー | <p>～上記の資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～</p> <p>①知識や技能を習得させ、主体的に学習に取り組む態度を養う教育活動を展開します。</p> <p>②課題研究などの授業を通して、課題解決を図る探究的な学習活動に取り組みます。</p> <p>③地域や外部機関と連携し、地域や社会の方々との交流活動に取り組みます。</p> |

2 学習目標

| |
|---|
| <p>農業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、社会を支え産業の発展を担う職業人として必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 農業の各分野について体系的・系統的に理解するとともに、相互に関連付けられた技術を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 農業に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として解決策を探究し、科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。</p> <p>(3) 課題を解決する力の向上を目指して自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。</p> |
|---|

3 学習計画

※知・知識・技術、思・思考・判断・表現、主・主体的に学習に取り組む態度

| 学期 | 月 | 授業計画 | 学習内容 | 時間 | 評価の観点 | | | 備考 | |
|---------|-------------|---|--|----|-------|---|---|---|---|
| | | | | | 知 | 思 | 主 | | |
| 1 学期 | 4 5 6 | 本年度計画の確認 研究を進める。 | 課題研究の意義を理解し、過去の研究例を参考としながら、テーマを決め、年間計画を作成する。 | 20 | ○ | | ○ | ・個人ファイルを持たせ、毎週提出 ・計画書の提出 ・1学期報告書作成 (6月下旬～7月上旬) | |
| | | 進捗状況を確認し計画を微調整する。 | 計画表を元に研究を進める。 | | ○ | ○ | | | |
| | | 1学期報告書作成および自己評価表作成 | 進捗状況を確認し、計画を修正する。 | | | ○ | ○ | | |
| | | | 飼育、栽培の管理 | | ○ | ○ | | | |
| | | | 発育や生育に関する調査 | | | | ○ | | ○ |
| | | 研究データの整理。 | | ○ | ○ | | | | |
| | | 1学期報告書と自己評価表の作成をとおして、今までの反省をふまえた上での計画の見直しを図る。 | | | | ○ | ○ | | |

| | | | | | | | |
|-------------|----|---|---|----|---|---|--|
| 2 学 期 | 7 | 研究を進める。 | 飼育、栽培の管理継続 | 30 | ○ | ○ | <ul style="list-style-type: none"> ・個人ファイルを持たせ、毎週提出 ・2学期報告書作成 (11月中旬～12月上旬) |
| | 8 | | 発育や生育に関する調査・研究を継続 | | | ○ | |
| | 9 | | | | | ○ | |
| | 10 | | | | | ○ | |
| | 11 | 2学期報告書作成および自己評価表作成 | 研究データの整理。 2学期報告書と自己評価表の作成をとおして、今までの反省をふまえた上での計画の見直しを図る。 | | ○ | ○ | |
| 3 学 期 | 11 | 研究を進める。 | 生育、飼育データを解析し、研究をまとめる。 | 20 | | ○ | <ul style="list-style-type: none"> 2年次報告書作成と研究中間発表会準備 (1月下旬～2月下旬) 2学期報告書作成 (11月中旬～12月上旬) パワーポイントの作成 |
| | 12 | | | | | ○ | |
| | 1 | | | | | ○ | |
| | 2 | | パワーポイントによるプレゼンテーションの作成 | | ○ | ○ | |
| | 3 | 研究中間発表会の準備 2年次報告書の作成 自己評価表の作成 研究中間発表会 来年度の計画の作成 | 発表原稿の作成 2年次報告書と自己評価表の作成を通して、1年間を振り返り課題研究の意義と成果を確認する。 研究中間発表会の準備を行う。 1年間の成果と課題を踏まえて、来年度の計画を立てる。 | | ○ | ○ | |

計 70時間 (50分授業)

4 評価規準と評価方法

| | | | |
|-----------|--|---|---|
| | 評価は次の観点から行います。 | | |
| | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
| 評価の 観点 | <p>農業の各分野に必要な問題解決能力や自己教育力などの育成をするため、プレゼンテーションの基礎的な知識・技術を身につけ、データをまとめることができる。</p> <p>農業の各分野に関する基礎的・基本的な知識を身につけ、農業の意義や役割を理解している。</p> <p>実験・実習の方法が身につけている。</p> | <p>農業に関する諸課題の解決を目指して思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を基に、農業に携わるものとして適切に判断し、表現する創造的な能力を身につけている。</p> <p>実験・実習に向けての学習に対して、考察が的確であり、それに伴い計画の立案、変更ができる。実験・実習、学習記録簿や報告書作成が的確にすることができる。</p> | <p>農業に関する諸課題について関心を持ち、その改善・向上を目指して主体的に取り組もうとすると共に、実践的な態度を身につけている。</p> <p>課題の設定や計画の立案などに意欲的で研究活動・資格取得活動に熱心に取り組もうとしている。</p> |
| 評価 方法 | <p>以上の観点を踏まえ、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日々の活動ごとの報告用紙 ・研究データの収集および解析 ・学期報告書、自己評価表 ・飼育、栽培への取り組み <p>などから、評価します。</p> | <p>以上の観点を踏まえ、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究計画書の作成 ・プレゼンテーションの作成および発表の様子 ・自己評価用紙の作成 ・研究データの収集および解析 <p>などから、評価します。</p> | <p>以上の観点を踏まえ、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究計画書の作成 ・プレゼンテーションの作成 ・自己評価用紙の作成 ・日々の研究への取り組み <p>などから、評価します。</p> |

5 課題・提出物等

- ・ 研究計画表
- ・ 学期ごとの自己評価シート
- ・ データをまとめた研究記録用紙
- ・ 研究記録をまとめた用紙およびパワーポイント

6 担当者からの一言

毎時間の実験・実習報告書を提出してもらい、1学期末・2学期末に「1学期中間報告書」、「2学期中間報告書」、学年末には「2年次報告書」を作成、提出してもらいます。また、成績に加味するよう年度末に学科または専攻単位で中間発表会を実施します。

(担当：各専攻職員)

| | | | | | |
|--------|------------|-----|-----|---------|-----------------|
| 教科(科目) | 農業（農業経営） | 単位数 | 2単位 | 学年(コース) | 3年（生物資源科・環境科学科） |
| 使用教科書 | 実教出版『農業経営』 | | | | |
| 副教材等 | | | | | |

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

| | |
|----------------|---|
| グラデュエーション・ポリシー | <p>～卒業までにこのような資質・能力を育みます～</p> <p>①心身ともに健康で調和のとれた人格の形成を目指すとともに、現代の農業に対応し、地域に貢献できる力を育成する。</p> <p>②体験的な活動をとおして、望ましい勤労観・職業観を育み、多様な課題に対応できる能力を育成する。</p> <p>③社会や地域の一員としての自覚を持ち、自らの成長のために挑戦しようとする心を育成する。</p> |
| カリキュラム・ポリシー | <p>～上記の資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～</p> <p>①知識や技能を習得させ、主体的に学習に取り組む態度を養う教育活動を展開します。</p> <p>②課題研究などの授業を通して、課題解決を図る探究的な学習活動に取り組みます。</p> <p>③地域や外部機関と連携し、地域や社会の方々との交流活動に取り組みます。</p> |

2 学習目標

| |
|--|
| <p>農業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、農業経営とマーケティングに必要な資質・能力の育成を目指す。</p> <p>(1) 農業経営について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 農業経営に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。</p> <p>(3) 農業経営のマネジメントやマーケティングが経営発展へつながるように自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働性に取り組む態度を養う。</p> |
|--|

3 学習計画

| 学期 | 月 | 授業計画 | 学習内容 | 時間 | 評価の観点 | | | 備考 |
|---------|------------------|------------|--|----|-------|---|---|--------|
| | | | | | 知 | 思 | 主 | |
| 1 学期 | | 農業の動向と農業経営 | ○日本と世界の農業 ○農業経営の動向 ○食料消費の動向と社会経済環境 | 10 | | ○ | ○ | レポート |
| | 4 5 6 7 | 農業のマネジメント | ○会計のマネジメント ・会計と簿記 ・資産・負債・純資産と貸借対照表 ・収益・費用と損益計算書 | 10 | ○ | | ○ | プリント |
| | | JA 意見文 | JA 意見文説明 | 1 | | ○ | ○ | 提出は2学期 |
| | | 定期考査 | | 1 | ○ | ○ | | |
| 2 学期 | | 農業のマネジメント | ・取引と勘定 ・仕訳と転記 ・試算表 ・決算 | 15 | ○ | | ○ | プリント |
| | 8 9 | | | | | | | |
| | 10 | 農業のマーケティング | ○農業マーケティングの概要 | 14 | | ○ | ○ | レポート |
| | 11 | | ○農業のマーケティング戦 | | | ○ | ○ | レポート |

| | | | | | | | | |
|-------------|-------------|------------|---|---|---|---|---|------|
| | 12 | | 略 ○農産物のブランド化 | | | | | |
| | | 定期考査 | | 1 | ○ | ○ | | |
| 3 学 期 | 1 2 3 | 農業のマネジメント | ○会計のマネジメント ・仕訳と転記 ・原価計算 ・損益分岐分析 ・損益分岐図表 | 9 | ○ | | ○ | プリント |
| | | 農業のマーケティング | ○農産物のブランド化 | 8 | | ○ | ○ | レポート |
| | | 定期考査 | | 1 | ○ | ○ | | |
| | | | | | | | | |

計70時間 (50分授業)

4 評価規準と評価方法

| | | | |
|-------|---|---|---|
| | 評価は次の観点から行います。 | | |
| | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
| 評価の観点 | ・実社会に必要な農業経営の知識や技能を身につけるようにしている。 | ・農業経営の問題の中で、問題を意識してそれを深め、そして自分の思いや考えをアウトプットし、さらに広げたり深めたり、あるいは様々な視点から見たり考えたりすることができるようにしている。 | ・自ら進んで自分の思いや考えを広げたり深めようとしていたりしている。また、自ら進んで積極的に理解してアウトプットしようとしている。 |
| 評価方法 | 以上の観点を踏まえ、 ・ペーパーテストの分析 (期末・学年考査) ・中間考査の代替えとしてレポートなどの内容の確認 などから、評価します。 | 以上の観点を踏まえ、 ・ペーパーテストの分析 (期末・学年考査) ・中間考査の代替えとしてレポートや意見文などの内容の確認 などから、評価します。 | 以上の観点を踏まえ、 ・授業中の発言などの取組の観察 ・レポートなどの内容の確認 などから、評価します。 |

5 課題・提出物等

- ・ レポート提出があります。
- ・ JA 意見文の提出があります (原稿用紙5枚)

6 担当者からの一言

農業経営に必要な知識・技術を身につけ、さらに自ら学ぶ力や創造力をはぐくみ、視野を広くし、自ら考える力を伸ばし、それをアウトプットできる力を身につけます。また、自律して世界に貢献できる能力を発揮するための基礎となる学びです。

| | | | | | |
|--------|-----------------|-----|-----|---------|-----------|
| 教科(科目) | 3年選択農業 畜産 | 単位数 | 2単位 | 学年(コース) | 3学年 農業選択者 |
| 使用教科書 | 農業718 「畜産」 実教出版 | | | | |
| 副教材等 | なし | | | | |

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー（共通の追加項目）

| | |
|----------------|--|
| グラデュエーション・ポリシー | ～卒業までにこのような資質・能力を育みます～ ①心身ともに健康で調和のとれた人格の形成を目指すとともに、現代の農業に対応し、地域に貢献できる力を育成する。 ②体験的な活動をとおして、望ましい勤労観・職業観を育み、多様な課題に対応できる能力を育成する。 ③社会や地域の一員としての自覚を持ち、自らの成長のために挑戦しようとする心を育成する。 |
| カリキュラム・ポリシー | ～上記の資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～ ①知識や技能を習得させ、主体的に学習に取り組む態度を養う教育活動を展開します。 ②課題研究などの授業を通して、課題解決を図る探究的な学習活動に取り組みます。 ③地域や外部機関と連携し、地域や社会の方々との交流活動に取り組みます。 |

2 学習目標

| |
|--|
| 家畜の飼育と経営に必要な知識と技術を習得させ、その特性や飼育環境を理解させるとともに、合理的な家畜管理と生産性の向上を図る能力と態度を育てる。 (1) 各家畜の特性や生態・習性に関心を持ち、意欲的に授業・実習に参加するとともに知識・技術について理解する。 (2) 各家畜の特性に関する基礎的・基本的な知識を身につけ、家畜に対し適切な管理法が実践できる。 (3) 家畜の健康状態を観察し、状況を把握する能力を身につける。 |
|--|

3 学習計画

※知・知識・技術、思・思考・判断・表現、主・主体的に学習に取り組む態度

| 学期 | 月 | 授業計画 | 学習内容 | 時間 | 評価の観点※ | | | 備考 |
|---------|---|-------------|---|--------------|----------------------------|--------|----------------------------|---------------------------------|
| | | | | | 知 | 思 | 主 | |
| 1 学期 | | 家畜の生理・生態と環境 | 家畜の家畜化 乳牛の実習・実験・観察 肉牛の実習・実験・観察 (家畜審査競技の学習) ニワトリの品種の選び方 ブタの品種の選び方 乳牛の品種の選び方 肉牛の品種の選び方 | 5 4 12 | ○ ○ ○ | ○ ○ | ○ ○ ○ | 授業補助プリント (記述の点検) 期末考査 |
| | | 養鶏 | ニワトリの特性 種卵～ふ化 | | ○ ○ | | ○ ○ | |
| 2 学期 | | 養鶏 | ニワトリの特性 施設・設備とその特徴 繁殖の生理 育すう 産卵鶏の飼育管理 予防衛生と病気 養鶏の経営 | 21 | ○ ○ ○ ○ ○ ○ | | ○ ○ ○ ○ ○ ○ | 授業補助プリント (記述の点検) 期末考査 |

| | | | | | | | | |
|-------------|----|--|--|----|---------------------------------|---|---------------------------------|----------------------------------|
| | | | ニワトリの実習・実験・観察 (産卵鶏の解剖) | | ○ | ○ | ○ | |
| 3 学 期 | 養豚 | | ブタの特性 養豚の施設・設備とその利用 ブタの繁殖 子豚の育成 肉豚の肥育 豚肉の流通 ブタの病気と予防衛生 | 28 | ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ | | ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ | 授業補助プリント (記述の点検) 学年末考査 |

計 140 時間 (50分授業)

4 評価規準と評価方法

| | | | |
|-----------|--|--|--|
| | 評価は次の観点から行います。 | | |
| | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
| 評価の 観点 | <ul style="list-style-type: none"> 学校で飼育する家畜に関する基礎的・基本的な知識を身につけ、各家畜の意義や役割を理解している。 各家畜に対し、基本的な技術を身につけ、その技術を適切に活用している。 | <ul style="list-style-type: none"> 畜産に関する諸問題の解決を目指して思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を基に、畜産に携わる者として適切に判断し、表現する創造的な能力を身につけている。 | <ul style="list-style-type: none"> 家畜の飼育と畜産経営に関する諸課題について興味・関心を持ち、その改善・向上を目指し主体的に取り組む姿勢を身につけている。 協調性を持って実習に臨む姿勢がある。 |
| 評価 方法 | 以上の観点を踏まえ、 ・ 考査・レポート・授業態度 などから、評価します。 | 以上の観点を踏まえ、 ・ 考査・レポート・授業態度 などから、評価します。 | 以上の観点を踏まえ、 ・ 考査・レポート・授業態度 などから、評価します。 |

5 課題・提出物等

・ 授業ごとにレポート提出があります。

6 担当者からの一言

・ 年間をとおり、季節・時期により特別実習を行います。
 ・ クラスルーム・ロイロノートなど積極的に利用してまいります。
(担当： 鈴木)